

自暴自棄に陥らないように

新型コロナウイルスの感染者が急速に増え続けていること。日本から遠く八千キロメートル離れたトンガ沖の海底の近くの火山島で、大規模な噴火が起き、日本にも津波の恐怖が襲ったこと。最近落ち着かない日が続きますね。

そんな中で、ショッキングな事件が土曜日に起こりました。大学入学共通テスト初日に、受験生ら三名が切りつけられたのです。新聞やテレビでも大きく扱っていましたが、知っている人も多いのではないのでしょうか。

切りつけたのは、名古屋市に住む私立高校二年の少年。医者になるために東大を目指して勉強していましたが、成績が一年前から振るわなくなり自信を無くしたとのこと。医者になれないのなら、人を殺して自分も死のうと自暴自棄に陥ったようです。少年のやったことは許されることではありません。しっかり反省して、人生をやり直してもらいたいと思います。

このできごとで私が注目したのは、少年の考え方です。東大に入って医師を目指しているところから、恐らく成績優秀な若者なのでしょね。大学の医学部は数多くあるにもかかわらず、東大医学部にピンポイントで絞っているところから、東大医学部によるほど強いこだわりをもっていただろうと想像できます。

そんな彼が、今回のような取り返しのつかないことをしてしまった理由、それが無性に気になります。自分が描いたレールの上を思い通り進めない状態になった時どうするか。そこで、「全てが終わりだ」という結論を出すのは早すぎます。さらには、自暴自棄に陥るという手段しか持ち合わせていないのも問題です。

これは、事件を起こした少年だけにあてはまるものではありません。十年かそこらしかまだ生きていない若者全員に当てはまると私は思います。少年のように、成績で悩むこともあるでしょう。仲間との人間関係に苦しむ人もいるでしょう。好きだった人に振られて悲しみに打ちひしがれる人もいるでしょう。恵まれない境遇に恨みを募らせる人もいるでしょう。

しかし、その解決策として、自暴自棄を選ぶことは間違っています。殺人、自殺はもちろん、犯罪や非行に走ることは何の解決にもなりません。それくらいつらいのだということには同情しますが、だからと言って、自分を正当化することにはなりません。

時間が解決するという言い方は適切ではないかもしれませんが、自暴自棄に走りたくなくなる時があっても、時間が経つと、それが「若気の至り」だったと気付くときが必ず来ます。少年は余裕がない状態で、取り返しのつかないことをしてしまいました。人の痛みや苦しみを察することができるといいうのも、医者の大らかな資質です。精神的にタフになって、自分の進むべき道を再び求めてほしい、と私は思っています。